

新大広報

Public Relations Magazine of Niigata University

2019年卒業記念号 No.210



| 特集 | 卒業生・修了生からのメッセージ
新たな夢への第一歩
～新潟大学での学びを糧に～

| 学長からのメッセージ

| 新大広報学生スタッフ 卒業座談会

真の強さを学ぶ。

 新潟大学



卒業・大学院修了を祝して

新潟大学の卒業生、大学院修了生の皆さんに、学長として心よりお祝いを申し上げます。

今年も、たくさんの前途有為な卒業生及び大学院修了生を社会に送り出すことができますことは、我々新潟大学の教職員にとってこの上ない喜びであるとともに、誇りでもあります。

仲間たちと共に学び、研究に集中した日々、充実した課外活動等、沢山の思い出を胸に、大きな夢と希望を持って、人生の新たな一歩を踏み出してください。

これから皆さんが活躍する社会は、地球的規模での国際協調と国際競争が同時並行的に進行する時代と言われており、流動的かつ複雑化した先行き不透明な時代に突入しています。さらに、国内では、大規模な自然災害が毎年のように発生し、それによって我が国の経済は大きな打撃を受けています。

このように、これからの社会は、どのような事態が発生するか予測不可能な状況となっています。

一方、これからはロボット、人工知能、ビッグデータ、ICT、IoT等を駆使した超スマート社会となっていきます。これらの新たな技術や事業の創出を可能とする人材が、経済界・産業界はもちろん、社会のあらゆる領域で求められています。

これから社会へ飛び立つ皆さんは、このような予測不能な世界に対して、大きな期待と同時に不安があるかもしれません。しかし、これまで本学で学んだ皆さんは、タフでありしなやかでもある「真の強さ」を持ち、人生の課題に立ち向かう素養を十分に備えた故に、新潟大学の卒業あるいは大学院修了を認められたのです。これからの時代において十分に活躍できる人材です。皆さんの活動の場はそれぞれ違っていても、広い視野と深い教養、高い専門的能力、そして若さという強力な武器をフルに駆使して、自信をもって社会で活躍してください。学長として、大いに期待しています。

皆さんの前途に幸多いことを心より祈念いたします。

新潟大学長 **高橋 姿**



新たな夢への第一歩

～新潟大学での学びを糧に～

卒業生・修了生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。新潟大学での学生生活はどんなものだったでしょうか？たくさんの学びや出会いがあったと思います。楽しかったこと、嬉しかったこと、大変だったこと…。みなさんの印象に残っていることや、後輩へのメッセージをお願いします。

学生生活で最も印象に残っていることを教えてください。

人文学部 人文学科
鹿間 結利加 SHIKAMA Yurika



私が最も印象に残っていることは、ゼミの活動と卒業論文の執筆です。部活やアルバイトもしましたが、特にゼミの仲間と自分が興味もっている問題に取り組む時間というのは、中学、高校に通っていた頃にはなく、社会に出てからもなかなか得ることができない時間だったのではないかと思います。ここで得られた思考力や知識をこれで終わりにするのではなく、社会人になってからも活用して磨き上げていきたいと思っています。

これからの決意表明

部活動でやった副部長やゼミ長をした経験で鍛えられた、必要な情報を整理する力や、筋道を立てて自分の考えを伝える力を活かして、安心して仕事を任せられるような社会人になれるよう、努めたいです。

教育学部 学校教員養成課程
笠原 花澄 KASAHARA Kasumi



教育実習へ行ったことがとても印象に残っています。何時間も試行錯誤しながら作った授業に、子どもたちが笑顔で楽しんでくれる姿が忘れられません。また、実習中は仲間の存在がとても大きかったです。夜中まで授業検討をしたり、その日あった嬉しかったことを話したりして、苦勞を共に乗り越えてきました。大学生活4年間は笑ってばかりの日々で、私はとても良い仲間恵まれていたと思います。

これからの決意表明

私はこれから教師として子どもたちの前に立ちます。今まで出会った子どもたちとの嬉しい出来事や、教育実習の経験を糧として頑張っていきたいと思っています。たくさんの子ども達に元気を与えられる教師になりたいです。

法学部 法学科
上谷 類寿 UETANI Ruisu



私は新潟大学法律相談部の一員として、市民の方々からの法律相談にお答えしてきました。相談者の方が何に悩んでいるのかを親身になってお聴きし回答を考える中で、責任の重大さを痛感しました。また、回答後に相談者の方から感謝のお言葉をいただいたときは大きな達成感を得ました。少しでも相談者の方の不安を解消したいという思いの下で、仲間たちと法律問題の解決を目指し、勉強・議論した日々は非常に有意義な時間でした。

これからの決意表明

私は春から国家公務員として働きます。生活の基盤を支える仕事に専念するとともに、この4年間では達成しきれなかった目標である、法律関係の専門職の試験に向けて、これからも日々勉強し続けていこうと思います。

経済学部 経済学科
大槻 剛史 OTSUKI Tsuyoshi



僕が学生生活の中で最も印象に残っているのはゼミ活動です。僕は内藤ゼミでミクロ経済学やゲーム理論などを専攻しており、経済学が現実でどのように活用されているかを深く学びました。ゼミ活動の内容は高度でつらいことも多かったです。専門分野に関する知見は確実に広がったと感じました。内藤ゼミは雰囲気も良く、時々先生が話す時事ネタが面白いゼミです。ゼミ活動は僕の学生生活を充実したものしてくれました。

これからの決意表明

僕はゼミ活動を通して、経済学をさらに学ぶために東京工業大学大学院への進学を決めました。そこではさらに高いレベルの研究を要求されるため、新潟大学での学習をもとに研究に取り組もうと思っています。

経済学部 経営学科
植松 美香子 UEMATSU Mikako



私が大学生活で最も印象に残っていることは、日本酒の商品化です。2年生の時、伊藤ゼミに入ってビジネスプランコンテストに出場したことがきっかけで、その後4年生まで日本酒の企画・販売を行って来ました。販売を行うまでにはなかなか思い通りにいかず辛い時もたくさんありましたが、それを何とか乗り越え、私たちの商品を買って喜んでくれる人を見ることができた時はとても嬉しかったです。辛い時を共に乗り越えたメンバー、困った時に助けてくれた先生や友人には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

これからの決意表明

私は地元である長野県の企業に就職をします。その時でできる100%の力で仕事に取り組むことはもちろん、大学生活でお世話になった家族や友人など周囲の人に、少しでも恩返しができるよう頑張っていきたいです。



理学部 生物学科
佐藤 千陽 SATO Chiharu



学習支援ボランティアへの参加が印象に残っています。大学1年のときから3年間、小学5年生から高校生を対象とした学習支援ボランティアに指導員として参加しました。毎回担当する生徒が変わる指導形式の活動だったので、多くの生徒の成長を実感できました。身体的にも精神的にも成長途中である年代の生徒達と交流をもて、成長の一端に携われたことは、とても貴重な経験となりました。

これからの決意表明

4月から地元である山形県の製薬会社で、製品の安全性を試験する部署に所属します。大学で学んだ知識と友人たちとの交流を大切に、充実した新生活を送れるよう頑張ります。

理学部 地質科学科
津久井 脩平 TSUKUI Shuuhei



私の学生生活で印象深かったことは大巡検です。私の所属する地質科では、3年次の春に日本列島を形作る岩石を観察する「大巡検」という実習があります。私たちはこの大巡検で約1週間をかけて四国全土を巡りました。昼間は他の地域ではあまり見られない岩石やダイナミックに変形した岩石を観察し、夜は友人や教員と共に観察した岩石の成因や、辿ってきた歴史などについて議論したことは、大変思い出深く印象に残っています。

これからの決意表明

私は春から新潟大学の修士課程に進学します。修士ではより専門的な研究を行い、研究を外部にむけて発表する機会も多くなります。それに耐える精度、かつ高度な研究を行うため、今後も精進していきたいと思います。

医学部 医学科
田中 智大 TANAKA Tomohiro



新潟大学での6年間で最も印象に残っているのは、5、6年次の臨床実習です。実習が始まったころは、患者さんに対し簡単な診察を行うのも緊張したことをよく覚えています。医学生は患者さんのお話を聞き、診察することで多くのことを学ばせていただく立場ですが、診察後、患者さんの方から感謝の言葉をいただくことも多かったと感じます。丁寧に話を聞くだけでも、患者さんにとって助けとなることを実感する場面でした。

これからの決意表明

医師として患者さんの様々な問題に寄り添いたいと思っています。私は他大学を卒業してから医学部に入りました。周囲の方への感謝の気持ちを忘れず、常に向上心を持ちながら医師として社会に貢献したいと思います。

医学部 医学科
増田 恵実 MASUDA Megumi



私が最も印象に残っていることは、5・6年時の臨床実習です。実習中は、手術や外来を見学するのはもちろんのこと、自分でも患者さんを担当し、問診や身体診察をさせていただきました。最初は、緊張してなかなか上手くいかなかったのですが、患者さん達が優しく協力してくださったお陰で、積極的に診察できるようになりました。丁寧に指導して下さった先生方、助け合った班の仲間、そしてたくさんのお話を教えて下さった患者さんたちに本当に感謝しています。

これからの決意表明

この春からは、初期研修医として臨床現場で働きます。不安なこともたくさんありますが、新潟大学で学んだことを糧に一歩ずつ成長していきたいです。そして、患者さんとその家族に寄り添える医師を目指していきたいと思っています。

農学部 農業生産科学科
山崎 陽子 YAMAZAKI Yoko



FC研究室でのことが最も印象に残っています。圃場作業が多いFC研究室は、元々農業が好きで身体を動かすことも好きな私にとって最高の場所でした。暑い日、寒い日、雨の日の作業、朝6時からの生育調査、二日酔いそのままサトイモの分解…。終わりの見えないきつい作業もありましたが、先生や技術員さん、同期からいい刺激を受けながら、より深い知識や技術の習得に励みました。この研究室でしかできなかったことは山ほどあり、多くの時間を圃場で過ごしたことは、とてもいい思い出になりました。

これからの決意表明

好きな農業に関わる仕事に就きます。座右の銘である『明日やろうは馬鹿野郎』の精神で、大学で学んだことを活かし、そして何よりも人との繋がりを大切に、一日も早く戦力になれるよう日々精進致します。

大学院 現代社会文化研究科
社会文化専攻 博士前期課程
貝沼 良風 KAINUMA Yoshikaze



学生生活で印象に残っていることは、5年間所属した地理学ゼミの実習で様々な場所に行ったことです。佐賀・山梨・岐阜・岡山・札幌と様々な場所で自分の関心に従って調査を行いました。学部2年次に訪れた佐賀では初めて聞き取り調査というものを行いましたが、この経験が今の研究の基礎になっていたかなと感じています。また様々な地域の特徴や問題を考えてきたことは、自分が来年度から勤務する企業を見つけるきっかけにもなりました。

これからの決意表明

学生生活で学んだことを活かせるかどうかは、自分次第になるでしょう。ですが身につけたことは必ず自分の味方であってくれと信じて、これからの新しい道を進んでいきたいと思っています。

学生生活で最も印象に残っていることを教えてください。



医学部 保健学科
竹本 春美 TAKEMOTO Harumi



最も印象に残っていることは、卒業研究です。内容はドラッグデリバリーの基礎研究です。普段の勉強とは系統が異なる薬学系の研究ということで、初めは実験内容を理解するのに精一杯でした。しかし4ヶ月間、先輩方の研究を聞き、奥田先生の熱心なご指導を受ける中で、分からないなりに何かを成し遂げようと、必死にもがき研究に取り組みました。最後に努力の成果を研究室の皆さんと共に最高の形で発表できたことは、学生生活の中で大きな財産となりました。

これからの決意表明

新潟大学に入学し、たくさんの人に出会い、多くのことを学びました。これらの貴重な経験を生かしながら、これから先も自己研鑽を積み、悔いのない人生を歩んでいきたいと思っています。

工学部 化学システム工学科
星 司 HOSHI Tsukasa



学生生活で最も印象に残っていることは、学生フォーミュラプロジェクトです。私が参加していたこの活動は、全日本学生フォーミュラ大会に向け、学生が自らフォーミュラカーの設計、製作を行います。ときには失敗することや、上手くいかないことがありましたが、先生や先輩方から指導をしていただき、仲間達と助けあうことで何とか困難を乗り越えることができました。この活動を通して得た知識や経験が、自分自身の成長につながったと思います。

これからの決意表明

春からは新潟大学の修士課程に進学し、より専門的な研究活動に取り組んでいきます。自分を支えてくれる方々への感謝の気持ちを忘れずに、日々精進していきたいと思っています。

大学院 自然科学研究科
数理解物科学専攻数理科学コース 博士後期課程
長峰 孝典 NAGAMINE Takanori



思い返してみれば、数学詰めの毎日でした。研究発表で北海道から沖縄まで全国を駆け巡り、最終年にはポーランド、台湾、アメリカと海外へ活動の場が広がりました。一番印象に残っていることは、約4ヶ月間のアメリカでの研究生活です。滞在先の先生と、近くのカフェにカプチーノを買いに行くのが日課でした。他愛もない会話をしながら向かっていたはずが、気がつくとなんか数学の話になり、良いアイデアがひらめいた時には、日が暮れるまで議論を行っていました。

これからの決意表明

学生生活を終え、ようやく数学者としてのスタート地点に立つことができました。アメリカでの生活は今後の人生にとってかけがえのない経験になりました。いつも初心を忘れず、常に全力で、数学に没頭していきます。

大学院 保健学研究科
保健学専攻看護学分野 博士前期課程
大橋 和貴 OHASHI Kazuki



私は長期履修制度を使って大学院を修了しました。働きながらの学生生活は、忙しくも充実した3年間でした。研究計画を立案し、データを集め、まとめた論文が学術雑誌に掲載されたときは、この上ない達成感を得られました。また、大学院で出会った人の情熱的な姿勢に、たくさんの刺激を受けました。自分の研究課題を深く追求する人達と切磋琢磨した時間は、これからの大きな支えになると思います。

これからの決意表明

4月からは、看護系大学の教員となります。これまでの臨床とは異なり、教育・研究の場に身を置いて、前期課程で行った研究テーマをさらに深めていきます。大学院で学んだことを活かし、少しでも医療・看護の発展に貢献していきたいです。

学生生活で最も印象に残っていることを教えてください。



大学院 医歯学総合研究科
医科学専攻 修士課程
稲泉 茜 INAZUMI Akane



学生生活で最も印象に残っていることは研究です。細菌がとにかく好きで、特に「病原性のある細菌の研究がしたい」という思いで入学したのですが、好きな研究に打ち込める学生生活はとても楽しかったです。何が原因で失敗しているのかわからない大変さも実験の中にはありましたが、予想外の結果に驚かされる面白さや、自分が最初に知ったのだという喜びを知ることができました。支えてくださった周囲の方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。

これからの決意表明

これからの目標は責任感を養うことです。卒業後に就く仕事では、厳しい目で判定を下すといった責任が求められます。マニュアル通りに仕事をするに満足せず、常に考える人でありたいと思っています。



大学院 教育学研究科
教育実践開発専攻 専門職学位課程
井口 貴雄 IGUCHI Takao



教職大学院では、自分と異なる分野、領域、職種の人と連携・協働することの大切さを学んだ。これまでは、目の前にある課題に対して自身の経験則や暗黙知で何とか解決しようと努めてきた。大学院での授業や実習では、異なる校種の院生や医療や福祉等の地域の関係機関との対話を重ねた。その結果、他者と目的を共有すること、目的に向かう個々の思いを共有すること、課題解決に向けて情報や方法を共有することの大切さを学んだ。

これからの決意表明

教職大学院での学びを自校だけでなく、地域や他校にも還元できるようにさらに精進していきたい。今後も自身で新たな問いを立て、課題解決に向けて、多様な他者と連携・協働し、新たな気付きや価値を共有していきたい。

大学院 教育学研究科
教育実践開発専攻 専門職学位課程
小林 亜美 KOBAYASHI Ami



私が学生生活で最も印象に残っていることは、大学院での2年間の学びである。大学院では、1年を通して同じ学校で実習を行った。生身の生徒と接し、授業をすることをおして、深い教材研究の重要性や、生徒の考えを引き出す授業の難しさを学んだ。また、情熱と愛情を持って子どもと向き合っている先生方と出会い、子どもの成長を喜び、自分も成長していける教員の魅力をさらに感じた2年間だった。

これからの決意表明

大学院の教授や、実習校の先生方から教えていただいたことをこれからの教員生活に生かし、生徒一人一人に目を向けた授業の実践や生徒とのかかわりのために、日々学び続けていきたい。

卒業するにあたり 後輩へメッセージをお願いします!



人文学部 人文学科
設楽 文花 SHITARA Fumika



5年間の学生生活を大満足で終えることができ、嬉しく思います。行動しなければ何も起こらないけれども、好きなだけどんなことだってできるのが、大学という場所だったのだと、今振り返って思います。もし「何のために勉強してるんだろう」「大学つまらない」と思う人がいたら、今興味のあること、あるいはこれまで出来なかったけどしてみたことを思い浮かべ、それらをどんどんやってみましょう。それは学内で出来ないことでも構いません。一歩踏み出せば、案外いろんな世界が広がっていることや自由、可能性を実感するはず。大学生という時間を楽しみ尽くしてください!

これからの決意表明

たくさんの選択肢がある中で、私は就職という進路を選びました。自分で選んだ道ですが、何事も一年目は不安と期待で胸一杯です。それを楽しめるように、自分の夢を目標に変えて、現実にするべく邁進していきたいと思っています。

教育学部 学校教員養成課程
武藤 奎太 BUTOU Keita



後輩へ一言ということで、国語科の後輩達へメッセージを送ります。僕からは「卒論頑張れ」です。これは、長期間で何か一つのことを追究して結果を出して欲しいということです。卒業後は長期間で結果を出すことの連続だと思います。社会では、それは仕事だからと言われてしまいますが、学生には正当に評価してくれる先生方がいます。ですので、長期間でも結果を残せるんだという自信を、大学生活の内に身に付けて社会に出て行って欲しいなと思います。

これからの決意表明

4月から教師としての生活が始まります。現時点では、どんな生活となるか想像もつきませんが、新潟大学で学んだことや培ってきたことを十二分に発揮して、充実した教員生活を送りたいと思います。

法学部 法学科
菊池 理 KIKUCHI Osamu



私が思う学生生活の一番の特徴は、自由な時間が多く確保できることです。そして、その自由な時間を、何か没頭できることに使うことこそが、有意義な使い方だと思います。在学生の皆さんは、部活動でも、趣味でも、勉強でも、何か没頭できることに時間を使ってください。その経験が、人生において、かけがえのない財産になると思います。

これからの決意表明

これからは、今まで学校という狭い環境で学んできたことを、社会という広大な環境で、活用していくことが求められるかと思っています。その中でも、新たなことを学ぶ姿勢を継続していきたいです。



医学部 保健学科
長瀨 愛香 NAGAHAMA Itoka



「好奇心を食べて生きよう!」私の尊敬する人の言葉で、私の座右の銘として、気になることは何でもやってみよう!と過ごした大学生活でした。いろんな方と出会って、いろんな発見があって、あつという間の楽しい4年間でした。中でも、福島県で災害支援医療ボランティアとして活動できたことは、とてもいい経験になりました。やってみよう!と思って、一歩踏み出すのは勇気が必要ですが、それができるチャンスがあるのが新大生の特権なのかなとも思います。悔いのない大学生活を送ってください!

これからの
決意表明

卒業後は新潟県内で助産師として働きます。これからも「好奇心を食べて生きよう!」の座右の銘のもと、学び続けて、大学での出会いや経験を大切に、新潟の産科医療に貢献できるように頑張ります!!



卒業するにあたり
後輩へメッセージを
お願いします!



歯学部 口腔生命福祉学科
坂井 ナル美 SAKAI Narumi



大学生活の4年間は本当にあつという間です。忙しい大学生活の中でも、部活やバイト、ボランティアなど様々な活動に挑戦してみてください。部活では素敵な仲間恵まれ、楽しい思い出がたくさんできました。私は興味のあることを追求することで、やりたいことがみつかりました。卒業してからは、挑戦したくてもできないことがでてくると思います。やりたいことは後回しにせず、悔いのない大学生活を送ってください。

これからの
決意表明

学科で学んできた歯科と福祉の知識を融合させ、一人の人の健康を広い視点から考えていけるよう頑張ります。また、大学生活に引き続き、挑戦する気持ちを常に忘れずに過ごしたいと思います。

歯学部 歯学科
小松 子記 KOMATSU Shiki



6年間は長いようであつという間でしたが、色々なことを経験できた濃い6年間でした。後輩のみなさんには「とりあえずやってみる!」の気持ちを大事に、学生生活を送って欲しいです。どうしようと悩むこともたくさんあると思いますが、まずはやってみる!ダメならダメでなんとかなります。やってみる気持ちを武器に色々なことに挑戦してください。そしてたくさん笑って楽しく充実した学生生活を送ってください。

これからの
決意表明

春からは研修歯科医として働きます。学ぶことのできる環境に感謝しながら様々なことを経験、吸収して大きく成長したいです。患者さんの気持ちを考えられる、人から必要とされる歯科医師を目指して頑張ります。

農学部 生産環境科学科
上山 直樹 UHEYAMA Naoki



在学中はアルバイトなどの校外活動を通じて、10軒以上の農家さんにお世話になり、農業の現状を自分の目で見て感じる事ができました。実際に大学で学んだ知識が農業の現場で重要な役割を果たし、労働生産性や土地生産性に大きく貢献していることを知り、私もこの分野で力になりたいと感じました。大学での学びに加え、視野を広げ積極的に行動することが重要であると思います。皆さんの大学生活が充実したものになることを願います。

これからの
決意表明

春からは専攻している農業土木の分野で働きます。在学中にお世話になっていた農家さんへの感謝も込めて、農業の現場で感じた気持ちも、大学で学んだ経験も忘れずに、常に学び続け、社会に貢献していきたいと思っています。



大学院 自然科学研究科
生命・食料科学専攻 博士前期課程
飯塚 紀公 IIZUKA Norihiro



基本的に大学では好きなことに打ち込むと良いと思いますが、学業も疎かにしないで欲しいです。大学でしか学べないような専門的な内容は初めはチンプンカンプンで、面白くないでしょう。ですが、しばらく勉強し続ければ面白みがわかり、楽しく学べるようになると思います。そのような経験をすれば、将来、何か壁にぶつかった時にポジティブに取り組めるようになるかもしれません。

これからの
決意表明

これまでの私は限定的な人間関係の中で毎日何となく過ごしていましたが、新潟大学出身者のイメージを悪くしないように、これからは明るく元気で一生懸命な人間になろうと思います。

大学院 現代社会文化研究科
人間形成研究(音楽創作)専攻 博士後期課程
大野 雅夫 OHNO Masao



大学に入り何が自分を成長させたか考えると、人との出会いによるものが大きかったなと今思っています。大学生活においては、色々な価値観を持った人と出会う機会があると思いますが、自分にはなかった考え方をする人との沢山の出会いが、自分にとっての新たな世界を切り開ききっかけになったと感じています。サークルの友達、先生方、社会の皆様、色々な人と出会って、楽しい学生生活を送ってください。

これからの
決意表明

春からは海外での研究活動の機会もあり、これからまた新たなスタートラインに立つ気持ちで、色々な課題に取り組んでいきたいと思っています。芸術家、研究者として社会に貢献できるよう頑張ります。

歯学部 口腔生命福祉学科

坂井 ナル美 SAKAI Narumi

大学生活の4年間は本当にあつという間です。忙しい大学生活の中でも、部活やバイト、ボランティアなど様々な活動に挑戦してみてください。部活では素敵な仲間恵まれ、楽しい思い出がたくさんできました。私は興味のあることを追求することで、やりたいことがみつかりました。卒業してからは、挑戦したくてもできないことがでてくると思います。やりたいことは後回しにせず、悔いのない大学生活を送ってください。

これからの
決意表明

学科で学んできた歯科と福祉の知識を融合させ、一人の人の健康を広い視点から考えていけるよう頑張ります。また、大学生活に引き続き、挑戦する気持ちを常に忘れずに過ごしたいと思います。

工学部 建設学科
茂野 恭平 SHIGENO Kyohei



大学生活を充実したものにできるかどうかは、自分次第です。新潟大学では部活動やサークルを始めとし、様々な物事に打ち込める環境が整えられています。私は研究室での活動を通して、学外発表などの貴重な体験をすることができました。これからも様々なことを経験して、自分の成長の糧としていきたいと思っています。皆さんも何か打ち込めることやチャレンジしたいことを見つけて、有意義な学生生活を送ってください。

これからの
決意表明

来年度から新潟大学修士課程に進学します。この4年間で学んだこと以上に、研究分野を深めたいという気持ちで進路を決めました。その思いを忘れず、社会の発展に貢献できる技術者を目指して日々精進していきます。

大学院 自然科学研究科
生命・食料科学専攻 博士前期課程
飯塚 紀公 IIZUKA Norihiro



基本的に大学では好きなことに打ち込むと良いと思いますが、学業も疎かにしないで欲しいです。大学でしか学べないような専門的な内容は初めはチンプンカンプンで、面白くないでしょう。ですが、しばらく勉強し続ければ面白みがわかり、楽しく学べるようになると思います。そのような経験をすれば、将来、何か壁にぶつかった時にポジティブに取り組めるようになるかもしれません。

これからの
決意表明

これまでの私は限定的な人間関係の中で毎日何となく過ごしていましたが、新潟大学出身者のイメージを悪くしないように、これからは明るく元気で一生懸命な人間になろうと思います。

大学院 保健学研究科
保健学専攻検査技術科学分野 博士後期課程
佐藤 菜美 SATO Mami



大学、大学院で過ごした9年間を振り返ると、入学当初の自分が今や別人になってしまったと思います。人付き合いが苦手なひ弱な三日坊主が、ドイツに9か月研究留学した成果を国際学会でスピーチ、休日には仲間と登山するような人になりました。大学って凄いところですね。勇気をもって様々な機会に飛び込みましょう。「好き!楽しい!」という気持ちを大切にしてください。それは自分や周囲を変えるほどのとてつもないエネルギーを生み出します。

これからの
決意表明

修了後は博士研究員としてドイツの研究機関で研究に従事します。将来、日本を拠点に、国内外の研究者と共に困難な課題に立ち向かえるような研究者になりたいです。そのための修行をしてこようと思います!



卒業するにあたり
後輩へメッセージをお願いします！

大学院 医歯学総合研究科
口腔生命科学専攻 歯周診断・再建学 博士課程

車 玉蘭 CHE Yulan



留学生活も終わりに近づき、振り返ると沢山の思い出がで、私を成長させてくれる毎日でした。後輩に伝えたいことは専門分野の理解を深めること、様々な出会いで活躍することです。「挑戦」することには、不安が伴うものですが、勇気を出して殻を破ってみると、刺激と大きな喜びを受け、一生の宝物になります。新潟大学は世界で活躍する国際人材の育成も目指していますので、皆さんも多くの世界と触れ充実した毎日を過ごしてください。

これからの
決意表明

いままでお世話になった方々に恩返しできるように、人も時代も国境も超えて想いを繋げ、新潟大学、日本との絆を大切にします。多様な能力、価値観を活かし、毎日の仕事に精進し、実りある人生を目指します。



大学院 技術経営研究科
専門職学位課程

中村 大輔 NAKAMURA Daisuke



私は技術者として企業で働く傍ら、社会人学生として技術経営を学んできました。多くの先生方や異業種で活躍する仲間と出会い、充実した3年間でした。仕事と学業の両立に苦しむこともありましたが、私が幸運だったのは学びをすぐに仕事の中で実践できたことでした。学びは実践を通して力になります。大学での学びは社会に出て実践する時がきっと訪れます。多くを学ぶ学生の「いま」を大切に、有意義な大学生活を送ってください。

これからの
決意表明

MOTを志したのは、技術だけでは何か足りないという問題意識からでした。新大MOTは今年度で閉講しますが、今後は技術+経営の視点で社会の発展に資する製品や技術を生み出し、MOTの意義を体現して行きたいと思っています。

大学院 技術経営研究科
専門職学位課程

小林 晴仁 KOBAYASHI Haruhito



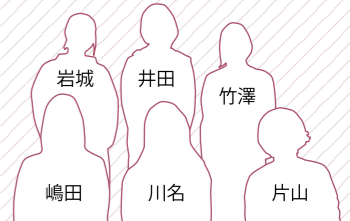
社会人学生として挑戦した56歳からの3年間、頭の回転や瞬発力の衰えも自覚しながらの学びでした。私の経験からは、いつの時代においても「努力する能力」のある人が目標にたどり着けるのではないかと思います。大学生生活という多くの自由な時間の中で、自ら積極的にチャレンジし、仲間を増やし、「努力できること」を見つけてください。

これからの
決意表明

修士論文で創りあげたマーケティング戦略を実践し、人生100年時代と言われるなかで、自分のスタイルに徹し、健康に留意しつつ、社会に認められ続ける会社づくりに貢献したいと思っています。

新大広報
学 生
スタッフ

卒業座談会



TALK MEMBERS

- 川名 裕子(法学部)
- 嶋田 麻美(法学部)
- 竹澤 梨夏(法学部)
- 片山 紗希(人文学部)
- 井田 瑞伽(教育学部)
- 岩城 理沙(経済学部)



2018年12月、2018年冬号(209号)が発行され、学生スタッフの3年生は引退となりました。新大広報の作成に貢献してくれた3年生に、これまでの活動を振り返り、スタッフになったきっかけや新大広報の思い出、これからの新大広報に期待することを語り合ってもらいました。

新大広報スタッフになったきっかけ

川名 最初に、新大広報スタッフになったきっかけについて話したいと思います。

岩城 私は、ピラがきっかけでした。ピラも1回スルーしかけたんですけど、結構心に残っていて後からメールしました。

川名 めちゃくちゃうれしい。特にピラのどの部分が心に残ったか覚えてる？

岩城 学生がやっているというのを見て、ちょうどいろんなことにチャレンジしたかったので、やってみようかなという感じでした。学生主体というところが気になりました。

井田 私はスタッフ募集のメールがきっかけでした。1年生のときに行きそびれて、2年生のときに今度こそと行ったら、2年生でも入りやすい雰囲気だと思ったので入りました。

川名 実際やってみてギャップとか感じなかった？

井田 ギャップはすごい(笑)。想像していたより責任があって、大変だった。

川名 仕事は何カ月か通して関わってもらうから、ちょっと大変だなんて最初は思うよね。竹澤さんは？

竹澤 新大広報って、1年生に配られるじゃないですか。なので存在は知っていたんですけど、これを学生が作っているのを知らなくて、私も同じくメールで学生が作っているんだと知りました。もともと写真が好きで、「写真撮る人募集」と書いてあったので、いいなと思って応募しました。

川名 どちらかというと執筆の方を中心にやりたいという人が多いから、写真に関する知識がある人が来てくれるのはありがたかったな。嶋田さんは？

嶋田 もともと、街で見かけるフリーペーパーを集めるのが好きだったのと、それを書いてみたいと思っていて「学生スタッフを募集してます」というのを見て、「これは行くわ」と思って(笑)。この



誌面がすごく好きだし、取材もやってみたかったから入ろうと思いましたが。ギャップを感じたところと言えば、説明会で説明している側の人数が少なかったことに驚きました。結構ボリュームがあるのに、こんなに少人数ですごいなと思いました。

川名 私は、もともと文章を書くのが好きで、高校では新聞部に所属していて、大学でも文章を書くという活動は続けていきたいなと思っていました。その中で新大広報の学生スタッフ募集!という文字を見て、「私こじかかないじゃん! (笑)」と思って入った感じですね。

新大広報の思い出

川名 次に、新大広報の作成に携わってきて特に思い出のある号や、思い出深かった出来事を話していきたいと思います。

片山 私が学生インタビューを初めてやる時(205号)に、最初テーマがぶれてしまって分からないままやってしまったので、1回目の取材で失敗して、急ぎよ「お願いします」と言って、2回目をやらせてもらったという失敗が反省になりました。



川名 でもここからはずっと学生インタビューをやってもらっていたから、クオリティがどんどん上がってきたよね。一番すごいなと思ったのは、CANsの記事(207号)。

片山 CANsの構成は私がしました。

川名 あれは特にすごいなと思って読んで感動した。こんな人いるんだなと思ったし、よくここまで引き出したなって。この人の力がすごいというのもあったのかもしれないけど、まだこのとき片山さん入って1年たってないくらいで、ここまでのものをつくれるって、すごいなと思いました。

片山 ありがとうございます。私は料理できないから、「ひとりdeli」をいつも担当していた嶋田さん、すごいなっと思っていました。

嶋田 ありがとうございます。意外と「ひとりdeli」やる人って、先輩も全然料理しない人が結構多くて。でも、料理しない分これは難しいなとか、これはちょっと作りにくいなという感覚が分かるかなと思っていました。

川名 新大広報を見るのは1年生も多いと思うし、初めて自炊する人も多いから、ハードルが高くないものを作るという視点も大事だしね。

嶋田 「ひとりdeli」で一番おいしかったのは、205号の「あさりのトマトスープ」ですね。すごくおいしかったので、よかったですね。

てみてください。

川名 私も味見させてもらったけど、すごくおいしかったよ。でもこれ何かが足りなかったって言ってなかったっけ?

嶋田 下に敷くランチョンマットが無くて、急ぎよこれを。

川名 そう、これを敷いたんだよね。できるだけこれだと分からないように撮ってと言われて、こんな感じかなと思って撮ったのが、確かこれ。

片山 これは何を敷いたんですか?

嶋田 私のGジャン(笑)。でもこれは本当においしくて、魚介類っていいだしが取れるんだなと、勉強させてもらいました。竹澤さんも一緒に「ひとりdeli」やってもらっていましたが、どうでしたか?

竹澤 もともと、新大広報は写真が撮りたくて入って、204号で初めてやったコーナーが「ひとりdeli」で、いっぱい写真が撮れてすごく楽しかったです。あと最後に食べられるというのもよかったです。

川名 204号は特にトマトの冷奴とか、料理本に載っているみたいで、すごくおいしそうで、私も味見しに行きたかったな。井田さんは結構インタビューとかしてくれていたよね。

井田 「ゼミ・研究室」や「OB・OGインタビュー」ですね。

片山 「OB・OGインタビュー」って大変そうだけど、実際はどうでしたか?

井田 結構緊張しますね。担当させてもらった人がトップカルチャーの方で、蔦屋書店で抜擢されてすぐに店長になった人でした(208号)。たくさんお話してくれて、載せきれない分もありましたね。

川名 岩城さんは、今年からだったよね?

岩城 ほんとあつという間でした。最初は正直職員の補助的な部分だと思っていたんですけど、こんなに学生に委ねられているんだとびっくりしました。最初に片山さんと学生インタビューを担当して、一から作るんだとびっくりしながら、先輩方や皆さんに助けてもらいつつやっていました。209号で特集をした時はすごく自由で、それもそれで困って(笑)。

川名 テーマから私たちが考えるからね。特集が一番負担的には大きいから大変な面もあるけど、その分やりきると達成感も大きいと思うけど、やってみてどうだった?

岩城 うーん、1回味わったらいかなと(笑)。でも、その分こうやって誌面を見ると、もっとみんなに手に取ってもらえたらうれしいなと思いました。

川名 私が特に話すなら、夏に特集で、200人アンケートというのを



やったんですよ。

嶋田 200号だから。

川名 そう、それを記念して200人に聞いてみよう。私は、馬術部の取材に行って、いろんな情報を話して下さって。それこそ、この馬術部だけで「チャレポ」とか「学生インタビュー」の記事が書けるんじゃないかぐらいの情報をいただいたのね。実際馬にも乗らせてもらって。

全員 いいな〜。

川名 そう、すごかったの。いざ乗ってみたらすごく前後に揺れるんだよ。「おー、おお、おお」みたいな(笑)。

嶋田 その感想を記事にできたらよかったね。

川名 そうそう。この感動をそのまま持ち帰るだけで自分の外に出さないで、自分の中だけの感想で終わってしまうのはもったいないと思ったし、それ以上の体験をさせてもらったなという感じでした。チャレポの管弦楽団さんのとき(207号)も、分量が多いのはこの部長さん副部長さんも馬術部の皆さんと同じように熱量があったからなんだよね。それでも削った方だけけど、載せきれないぐらいになってしまった。それを載せきれないのは申し訳ないなと思っていて、いつかどこかでチャレポ拡大版として、部活やサークルをちゃんとレポートとしてまとめられたらよかったなという、ちょっとした後悔がありますね。

嶋田 それこそ、これからSNSとか運用していくのだったら、そこにこぼれ話みたいな形で載せられなかったのを載せてもいいのかなって思いますね。

川名 確かに、実はこんな話もあって、みたいな。そういう消化不良の部分が私の中ではあるかな。そういう意味では新大広報に関わってきたこの3年間はすごく濃いものだったし、改めてやってよかったと思っているかな。一人ひとりの熱量って、すごい人はほんとにすごいんだなって感動したから。

これからの新大広報に期待すること

川名 最後に、今後の新大広報に期待することをお願いします。

片山 今後は、もっと、よりたくさんの人に読んでもらえるようになるといいかなと思います。宣伝にこれから力を入れてくれるみたいなので、今後の後輩の皆さんに期待しています。

嶋田 私は結構「ひとりdeli」とか「チャレポ」とか、決まったコーナーばかりを担当させてもらったことが多かったんですが、209号で初めて「OB・OGインタビュー」のコンテンツリーダーをやらせてもらって、コーナーによってすごく色が違うなと思いました。例えば「OB・OGインタビュー」では、相手が学生ではなくて社会人なので、事前に準備していくことの大切さとか、会社のこととかも調べなくてはいけなし。これから後輩たちにはいろんな記事を担当しても

らって、いろんな視点に気づいてもらえたら、取材自体も楽しいものになるし、作り手の思いが伝わるものになるのではないかと思います。

竹澤 私は実際に自分も取材して、みんな努力して時間もかけて内容の濃いものをまとめているので、一人でも多くの人に見てもらえるように、メールやSNSでの宣伝活動はしていってほしいなと思います。

井田 私もとにかく、新大広報をいろんな人に読んでもらえる活動を活発化してほしいなと思います。これを初めて見た時に、こんな面白いものを作っているんだとすごく感動しました。でも、実際新大広報を知っているか聞くと、ほとんどの人が知らなくて。今後はTwitterとか実行されて、聞いたなら百発百中知っている状況になったらいいなと思います。

岩城 私はたった1年だったんですけど、もっと前からやればよかったなと思っています。今後は、新大広報スタッフの皆さんが、自分たち自身楽しんで記事制作や取材、宣伝活動をやっていただけるのではないかと思います。

川名 私が一番期待することは、次期編集長も含めて後輩たち全員が、やっぱり楽しんでやってもらいたいなと思いますね。学生主体でやっているから、学生らしさをもっと存分に出してほしいなと思います。どうして学生主体でやっているのかという意味を一人ひとり考えてもらって、その答えをこの活動の中で見つけていってもらえたら何よりです。それで一人ひとり、新大広報スタッフをやってよかったと思えるなら、それで十分なのではないかと私は思います。私もこれまで3年間やってきてよかったと思うし、もうちょっとやりたいという未練もあるし。後輩たちにとっても、未練が残るぐらい良い活動になっていったらいいなと思います。



※新大広報のバックナンバーは新潟大学ホームページで公開しています。また、学務部学生支援課で受け取ることもできます。



新潟大学全学同窓会



全学同窓会 野本憲雄会長インタビュー

伝統ある各学部同窓会の枠を超えた連携・協力を目指して、平成18年に設立された全学同窓会の歩みも10年を超えました。会長の野本憲雄さんに全学同窓会の活動について伺いました。

全学同窓会の理念や目標について教えてください。

目標は、「新潟大学の発展と社会への貢献に資するとともに、会員相互の交流と連携及び親睦を図る」ということです。この目標に向けて、会員への情報提供・サービスを充実し、大学・社会貢献を推進して、「会員にとって同窓会の存在が実感できる同窓会づくり」、「母校とそこで学ぶ学生さんを支援できる力量がある同窓会づくり」を目指しているところです。

全学同窓会の活動や事業について教えてください。

広報紙「雪華」の発行、メールマガジンの配信、交流会・講演会の開催、大学との懇談会の開催、「新潟大学カード」(クレジットカード)事業、母校支援事業、学生さんのための「雪華支援事業」などを行っています。

「雪華支援事業」では、学生さんの活動に年350万円程の支援を行っています。また、五十嵐、旭町両キャンパスの体育施設のトレーニング機器の充実のために1,000万円ずつ寄贈してきました。

卒業したら... 新潟大学カードに入会しよう!

新潟大学カードはVISA付きの国際カード
入会費・年会費無料

新潟大学カードに関するお問い合わせは...
新潟大学全学同窓会事務局
TEL:025-262-7891(受付時間 平日10:00~15:00)
E-mail: n-doso@adm.niigata-u.ac.jp



「新潟大学カード」の収益も学生さんの支援に充てています。入会費・年会費無料のクレジットカードです。皆様方にも卒業を機に是非ともご入会いただきたいと思います。

学生、卒業生に一言お願いいたします。

母校が教育・研究の実を挙げ、母校の評価が一層高まることは、同窓生みんなの願いです。何よりも教職員、学生の皆様のご努力・ご活躍に期待しますが、同窓生が社会でご活躍され、同窓会にご協力・ご支援をいただいで、母校と学生さんを力強く応援したいものです。卒業生の皆様の前途に幸多かれと祈り、ご健康・ご活躍を祈念申し上げます。

【新潟大学全学同窓会HP】 <http://www.niigata-u.ac.jp/dousoukai/>

【新潟大学全学同窓会事務局】

TEL:025-262-7891(受付時間 平日10:00~15:00) FAX:025-262-7892
E-mail: dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp

新潟大学 ご協力ください

新潟大学には「新潟大学まなび応援基金」と「新潟大学基金」の2つの基金があります。2つの基金を有効に活用し、様々な事業の支援を行っています。ご寄附をいただいた場合、税法上の優遇措置が受けられるほか、本学独自の特典も用意しております。皆様からのご支援をお願いします。「新潟大学まなび応援基金」と「新潟大学基金」の詳細はホームページをご覧ください。

新潟大学まなび応援基金 (平成28年創設)

目的 「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」をはじめ、経済的理由により修学が困難な学生に対する修学支援事業を行う

■税法上の優遇措置

個人:税額控除と所得控除を寄附者が選択
法人:全額損金に算入可能

■支援事業

- 入学金、授業料又は寄宿料の全部又は一部を免除する事業
 - 学資金を貸与又は給付する事業
 - 学生の海外への留学に係る費用を負担する事業
 - TAやRAの業務を行う学生に対する手当等を負担する事業
- ※TAとは、優秀な大学院生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせる制度です。
※RAとは、研究プロジェクト等に、優れた大学院生(博士課程在学者)を研究補助者として参画させる制度です。

上記事業のうちから支援の必要性の高い事業に活用させていただきます。

★支援事業を指定することはできません

新潟大学基金 (平成21年創設)

目的 新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、研究活動支援、学生の厚生施設整備などを推進する事業を行う

■税法上の優遇措置

個人:所得控除
法人:全額損金に算入可能

■寄附目的

- 教育活動の支援
- 学生の修学支援
- 研究活動の支援
- 国際交流活動の支援
- 地域・社会への貢献活動支援
- キャンパス等施設整備の支援
- 病院運営の支援
- 大学全体の支援

★寄附目的を指定することができます

基金を活用した主な事業

- 輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金
- 新潟大学修学応援特別奨学金
- 新潟大学学業成績優秀者奨学金
- 国際交流活動支援事業

【基金ホームページ】 <http://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/>

【お問い合わせ先】新潟大学サポーター連携推進室

TEL:025-262-5651・6010・6356(平日9:00~17:00) E-mail: kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

祝卒業! これからも新大を温かく見守ってください!
新潟大学公式SNSアカウント→



大学の日常やイベントを日々ツイート♪
@Niigata_Univ_0



フォトジェニックな画像で大学の新たな魅力を紹介!
@niigata_university



大学の取り組みや学生の活動を紹介!
@niigata.univ

【新大広報 Back Number】 新大 広報

検索

新大広報のバックナンバーは新潟大学ホームページで公開しています。また、学務部学生支援課で受け取ることもできます。

新潟大学ホームページ <https://www.niigata-u.ac.jp/>

2019年卒業記念号 [No.210]

2019年3月発行

編集・発行 / 「新大広報」学生編集スタッフ
新潟大学学務部・新潟大学広報室
印刷 / 株式会社第一印刷所



リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。